

特集 策定します！ 後期基本計画

第5次寄居町総合振興計画基本構想



問い合わせ／総務課（☎581・2121内線316）へ。

町では「第5次寄居町総合振興計画基本構想・前期基本計画(平成18年度策定)」に基づき、さまざまな施策・事業に取り組んでいるところです。この前期基本計画が平成23年度で期間満了となるため、町職員による後期基本計画策定プロジェクト・チームを設置し「後期基本計画」の策定を行っています。

第5次寄居町総合振興計画は、平成19年度から28年度までの10年間を計画期間と定めていますが、そのうちの後半にあたる平成24年から28年度の5年間を後期基本計画の期間としています。

後期基本計画は、近年大きく変化している社会経済情勢を的確にとらえつつ、これまでの後期基本計画策定プロジェクト・チームの検討成果を踏まえ、町民の皆さんとともに、力をあわせてまちづくりに取り組んでいくための施策・事業を定めるものです。

後期基本計画策定プロジェクト・チームでは、7～12月にかけて、町民意見聴取(団体ヒアリング)、各課ヒアリングを実施し、町民意識調査(町民満足度・重要度等)の結果とあわせて、前期基本計画の取組状況について点検・評価を行い、施策体系(おおむね5年後の目標・施策・区分)の見直し検討を行いました。

今月号では、後期基本計画案の骨子がかたまりましたので、ご報告します。また、パブリック・コメントを実施しますので、この計画案についてのご意見をお寄せください(詳細は本誌7～11頁をご覧ください)。

施策体系にそった 点検評価の概要

(主なポイント)

魅力 寄居ブランド水の郷・史・文化
自然と人との調和・歴史・文化



前期における主な取り組み内容

- ◇観光地における清掃活動
- ◇観光資源の整備(中間平、円良田湖等)
- ◇生活学の達人の登録、まちづくり出前講座、子ども博士検定の実施
- ◇富田谷津工業地区における地区計画の導入(工業地区としての土地利用)
- ◇鉢形城歴史館・鉢形城公園における企画展・イベント開催
- ◇北條まつりのPR(ラジオCM)

点検・評価の概要

◇目標達成には至っていないが、観光入込客数、加工品、おもてなしの人材確保・育

成などで成果があり、町民満足度も向上している(川遊び、祭りの観光客数は大きく増加)

○観光消費額の減少は、ゴルフ場利用客の減少が要因と考えられる

○自然環境・景観の満足度は高いが、土地利用・芸術・文化の満足度は低下している

後期における目標・施策体系見直しの主なポイント

- ①自然や歴史文化、産業を活かした新たな観光を創造(ブランド育成)
観光入込客数特に川遊び、祭りが増加しており、エキナセアのブランド化なども進みつつある中で、自然や歴史文化、産業などの地域資源との連携を図り、ゴルフ場利用に代わる新たな観光消費や地域活性化につながる寄居の楽しみ方の創造「おもてなしの人材育成」などを通じて、明確なイメージでPRできる寄居ブランドを育てることが必要です。
- また、寄居の魅力を支えている豊かな自然や景観については、町民の満足度は高い水準にありますが、低下傾向にあり、町民の継続的な参加で守っていくための取り組みも重要です。

②歴史ロマンを感じさせる寄居の魅力価値を向上

④障害者が自立した生活を送り、個性を活かして地域で交流活動できる環境を充実
障害者が地域で自立した生活を送ることができるよう各種支援等を行っていますが、町民満足度は低い状況で、ふれあい広場等の交流機会への参加も少なくなっています。

⑤小児医療救急医療に関する高い町民ニーズに対応シ「こころ」の健康を含めた健康づくり疾病予防を充実
保健・医療に対する町民満足度は大きく低下しており、その重要度は高い状況です。少子高齢化が急速に進む中で、小児科医の不足や救急医療体制に対する不安が大きいことが背景にあるものと考えられるため、不安要因の分析と的確な対応が求められます。

また、健康診査受診率が向上するなど、町民の健康づくりへの意識が高まっているものと考えられますが、今後は、身体的な疾病だけでなく、こころの健康も重視した取り組み

特集

安心 子育て・学校教育・高齢者の暮らし・障害者の暮らし・保健・医療・人権の尊重



前期における主な取り組み内容

- ◇地域子育て支援拠点事業
- ◇子育て相談窓口の設置
- ◇乳児保育、障害児保育、延長保育の実施
- ◇子ども医療費支給年齢拡大事業
- ◇要保護児童対策の推進

◇放課後児童クラブの充実

◇学校教育

◇各学校への学校応援団の設置

◇耐震補強工事、パソコン・LAN・インターネット利用環境の整備、学校給食の運営改善

◇高齢者の暮らし

◇生きがい講座、はつらつ短期大学の開催

◇シルバー人材センターへの支援

◇地域包括支援センター・在宅介護支援センターの設置運営

◇介護教室の開催

◇障害者の暮らし

◇自立支援給付、自立支援医療費等の支給

◇地域生活支援事業の提供

◇心身障害者地域デイクア施設等への支援

◇障害者福祉ガイドの作成、相談事業者等との連携

◇障害者の外出援助

◇保健・医療

◇生活習慣改善(人間ドック、脳ドック)

◇予防接種、健康診査の充実

◇健康診査事後指導の充実

◇人権の尊重

◇教育啓発・相談活動の実施

◇男女共同参画推進プラン2010の策定

点検・評価の概要

○町民満足度(子育て環境は目標を達成しており、子育て支援センター事業の利用者数も、目標を大幅に超え

ている

○合計特殊出生率は、平成20年に1.22まで回復したものの、0～5歳人口は減少している

○学校教育では、目標未達成の指標もあるが、学校施設の充実や、学校運営への町民の協力が進んでいる

○高齢者の活躍機会が増加し、町民満足度(高齢者の生きがい)も高まっている

○障害者の暮らしでは、町民満足度(自立して生活する体制)が低下しており、交流機会への参加も減少している

○町民にとって、保健・医療の体制の重要度は非常に高いが、満足度は大きく低下している

後期における目標・施策体系見直しの主なポイント

①子育て支援の取り組み効果を持続

これまでの子育て支援施策の充実が町民満足度の向上や合計特殊出生率の回復につながってきており、今後はその効果を持続させるとともに、着実に出生につなげ、少子化傾向に歯止めをかけるための効果的な取り組みを展開していくことが求められます。

②子どもたちがふるさとを愛する気持ちを育む学校生活全般の安全を守る・障害のあ

③元気な高齢者が地域でさまざまな活動ができる環境を充実
要介護高齢者の割合が高まっており、地域ぐるみの福祉活動に対する満足度は低下しているため、地域包括支援センター等を核とした事業の展開を着実に進める必要があります。その一方で、シルバー人材センターをはじめ、元気な高齢者の活躍機会が増加しており、町民意見においてもその重要度が認識されているため、高齢者が地域で元気に活